

さんかくBook

Vol.4
2020/SPRING
旧「しのぶびあ」を
「さんかくBook」へ
2017年にリニューアル
しました。

特集

第18回福島県男女共生のつどい・
福島市男女共生セミナー2019

- 吉田 沙保里さん トークショー
『迷わない力』
～夢を実現するために私が続けていること～

取材

- 福島県立福島高等学校
Jazz 研究部

紹介

- **Women's Innovation College**
in ふくしま
～女性がもっと活躍できる職場づくり 提案発表～

- 福島市男女共同参画センターでは、さまざまな講座
などを実施しています！
- 福島市男女共同参画に関する意識調査の結果から

【表紙紹介】男女共同参画についての「あなたからのメッセージ」事業

詳しくは、市HPをご覧ください。

この事業は、学校教育など教育活動のあらゆる場面で男女共同参画を推進する事業として実施しています。
今年度は「女も男も関係なく、いろんな場所で活躍するひと」をテーマに、小学生以上のみなさまから
561点の応募をいただきました。最優秀賞に輝いた3つの作品をご紹介します。



小学校低学年の部 最優秀賞 鎌田小学校3年 渡辺美涼さん



中学生の部 最優秀賞 福島第一中学校2年 近藤優菜さん



小学校高学年の部 最優秀賞 福島大学附属小学校6年 嶋原月那さん

女性がもっと活躍できる職場づくり ～提案発表～ **inふくしま**

女性がさらに活躍するために職場環境の改善につなげ、職業生活の充実を図る目的で、12人の受講生が、市長や職場の上司等を前に提案発表を行いました。



『迷わない力』
夢を実現するために私が続けていること

小さい頃のお話、そして、オリンピックのことから引退後の生活のことまで、いろいろなお話を伺い、その中で、吉田沙保里さんの生き方を垣間見ることができました。

小さい頃から性別で分け隔てされることなく育ってきたこと。そのことが強さにもつながり、価値観の基になっていること。競技ルールが改正されればそれに対応しなければならぬように、時代の変化や多様性にも対応することが大切であること。人と比べるのではなく、自分が何をしたいのかが大切であること。どんなに小さな夢でも実現させるためには時間が掛かるが、夢を持つことでその時間さえも使い方が変わってくる。リオデジャネイロ五輪で金メダルを取れなかったことが、人間的な成長につながったことなどのお話をいただきました。

『迷わない力』
夢を実現するために私が続けていること

小さい頃のお話、そして、オリンピックのことから引退後の生活のことまで、いろいろなお話を伺い、その中で、吉田沙保里さんの生き方を垣間見ることができました。

小さい頃から性別で分け隔てされることなく育ってきたこと。そのことが強さにもつながり、価値観の基になっていること。競技ルールが改正されればそれに対応しなければならぬように、時代の変化や多様性にも対応することが大切であること。人と比べるのではなく、自分が何をしたいのかが大切であること。どんなに小さな夢でも実現させるためには時間が掛かるが、夢を持つことでその時間さえも使い方が変わってくる。リオデジャネイロ五輪で金メダルを取れなかったことが、人間的な成長につながったことなどのお話をいただきました。



福島市男女共同参画センターでは、さまざまな講座などを実施しています! **紹介**

男女共同参画人材養成講座

企業や地域で活躍できるリーダーの養成を目的に、各分野で活躍している講師をお招きし、連続講座を開催しています。

[2019年度実績]

- ◆開催期間：7月～12月
- ◆時間：午後7時～9時

詳しくは、市HPをご覧ください。



男女共生セミナー

男女がともに力をあわせ、その個性と能力を十分に発揮し、様々な分野においていきいきと活躍できる地域社会の実現を目指し開催しています。

◆開催時期：主に11月

詳しくは、市HPをご覧ください。



人権の花運動

協力して花を育てることをとおして、思いやりの心を育むことを目的に、毎年市内の小学校に、花苗の贈呈をおこなっています。

◆開催時期：主に6月

詳しくは、市HPをご覧ください。



第18回福島県男女共生のつどい・福島市男女共生セミナー2019 **特集**

すべての人々が性別などに関わらず、その人の人権が尊重され、あらゆる分野において平等で豊かな活力ある「男女共同参画社会」の実現を目指し、2019年11月23日(土)、パルセいいざかを会場に開催し、1,650人が参加いたしました。

元女子スリング選手・オリンピックメダリスト **吉田 沙保里さん** トークショー



『迷わない力』
夢を実現するために私が続けていること

小さい頃のお話、そして、オリンピックのことから引退後の生活のことまで、いろいろなお話を伺い、その中で、吉田沙保里さんの生き方を垣間見ることができました。

小さい頃から性別で分け隔てされることなく育ってきたこと。そのことが強さにもつながり、価値観の基になっていること。競技ルールが改正されればそれに対応しなければならぬように、時代の変化や多様性にも対応することが大切であること。人と比べるのではなく、自分が何をしたいのかが大切であること。どんなに小さな夢でも実現させるためには時間が掛かるが、夢を持つことでその時間さえも使い方が変わってくる。リオデジャネイロ五輪で金メダルを取れなかったことが、人間的な成長につながったことなどのお話をいただきました。



部長の安田真優花さん(左)と副部長の関根美憂さん(右)

Jazz研究部の活動を始めたきっかけを教えてください

(安田さん) 演奏の経験はなかったが、入学式の演奏に感銘を受けて入部しました。(関根さん) 中学3年生の時、福高Jazz Z研究部の定期演奏会での演奏に惹かれて入部しました。

部をまとめていくために意識していることはありますか

Jazzは即興演奏が特徴的な音楽という点もあり、個性豊かな部員が集まっているので、個人を尊重しながら団体として統率をとることが難しく、話し合いの時は、お互いの距離感を縮めることを意識しています。

演奏で意識していることはありますか

個々の自由をしつかり意識しながらも、みんなでまとまり良く演奏できるように自分たちで研究し、常に聴いていただく方が楽しめるように、客観的に全体をみて演奏することを心掛けています。

活動で苦労したことはありますか

女性ばかりだと偏った意見になってしまいうことがありました。話し合いをする

参加者の声

▼ 目標をもつ大切さ、努力する大切さ、心の強さの大切さ、夢をもつ大切さ、勉強になりました。

▼ 感謝の気持ちを忘れずにもち続けていきたいと思いました。

▼ 決断力と切り替えの早さが迷わない力になると感じました。

▼ たくさんの人に支えられて生きているということを自覚していきたいと思いました。

▼ 「人生一度きり」という言葉に勇気をいただきました。

▼ 自分のやりたいことを思いっきりやる。失敗しても構わないと思えば挑戦するという言葉が印象に残りました。

▼ 負けた後に勝つ目標をもつこと、負けたことから学ぶことなど、世界一の話に感動しました。

▼ 「男が」「女が」というのではなく、自然体で生きており、自分もそうありたいと思いました。

トークショーに先駆け、オープニングで素晴らしい演奏をしていただいた **福島県立福島高等学校 Jazz 研究部**

45年の歴史を受け継ぐJazz研究部の部長の安田さんと副部長の関根さんに伺いました。

取材



「男女共同参画」の実現には何が必要になってくると感じますか

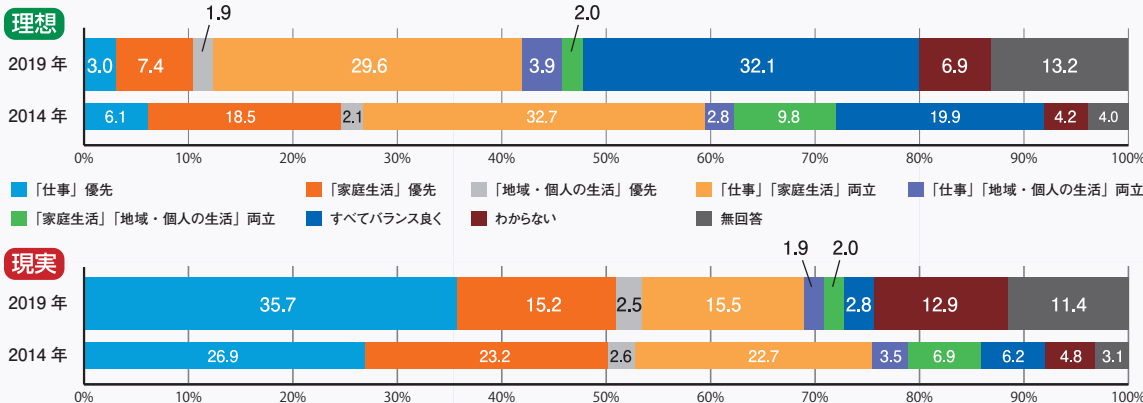
特に「男女」だからという意識はなく、自然に分け隔てなくしていますが、一人ひとりが意識してお互いのできる事、できない事を知ること、知ってもらうこと、そして、理解し合うことが大切だと思います。お互いで共有できれば、男女が力を合わせて、より良い社会となり、お互いに過ごしやすい環境を作ることができると思います。

うえでは、女性、男性、それぞれの意見が必要だと思います。一緒になって話し合いをすることでより良い環境となり、幅広いパフォーマンスに繋がるようになったと思います。

福島市男女共同参画に関する意識調査の結果から

紹介

◆仕事と生活のバランスの理想と現実

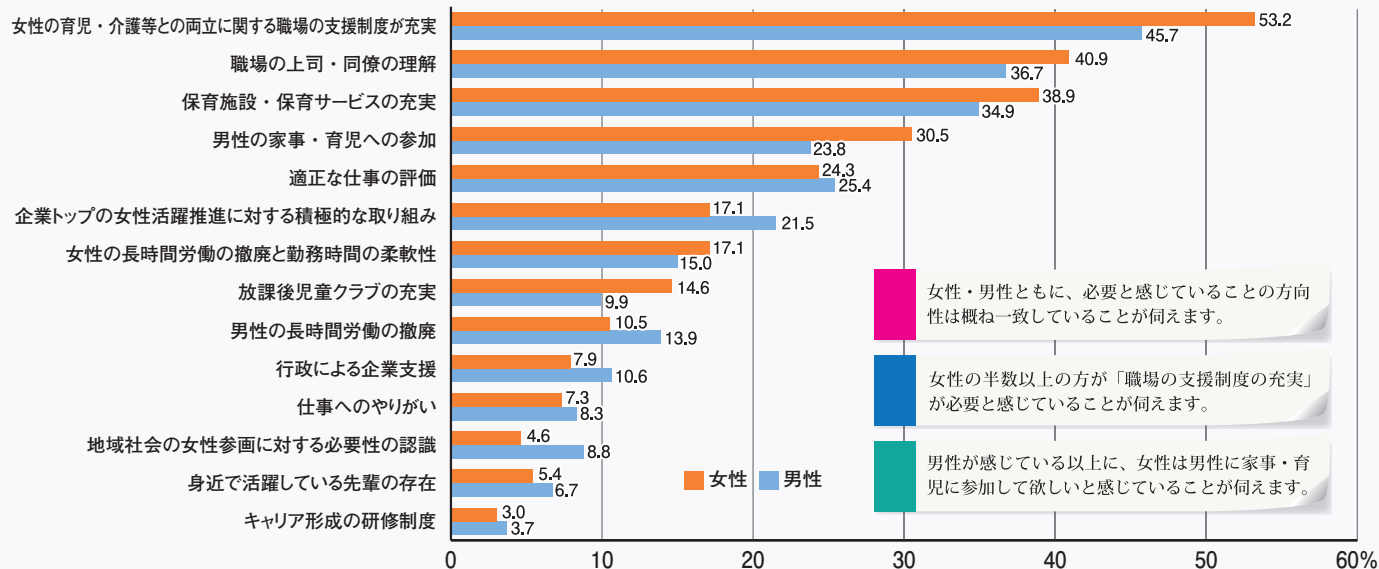


『理想』と『現実』には大きなギャップがあることが伺えます。

『理想』では、5年前に比べ、「仕事」や「家庭生活」など単独での優先より、「すべてバランスよく」過ごしたい方の比率が伸びており、ワーク・ライフ・バランスの意識が浸透してきていることが伺えます。

『現実』では、5年前に比べ、「仕事」優先の比率が伸びていることが伺えます。

◆女性が活躍するために必要なことは？【複数回答】



女性・男性ともに、必要と感じていることの方向性は概ね一致していることが伺えます。

女性の半数以上の方が「職場の支援制度の充実」が必要と感じていることが伺えます。

男性が感じている以上に、女性は男性に家事・育児に参加して欲しいと感じていることが伺えます。

上記では、意識調査結果の一部を紹介いたしました。皆さんの考え方との違いがあったかもしれませんが、より良い社会の実現に向け、いろいろな考え方を知り、理解し、分かち合い、多様性を尊重することが大切です。

「男女共同参画に関する意識調査」は、平成23年3月に策定した「男女共同参画ふくしまプラン」の推進状況の確認、および令和3年度から新たにスタートするプランを策定するための基礎資料とするために行いました。
 なお、意識調査結果の詳細は、市ホームページに掲載予定です。

調査時期：令和元年7月
 対象者：無作為抽出した満18歳以上の福島市民 2,500人 (男女各 1,250人)
 回収率：41.0% (1,026人)

編集後記

福島県立福島高等学校JAZZ研究部への取材で、性別を意識することなく、お互いがお互いのことを共有し理解すること、を当たり前に捉えており、若者にとって「男女共生」は自然なことであると感じました。私たちが大人が、性別などに捉われないことなく、その人の個性と人権を尊重する社会にしていかなければいけないと改めて自覚いたしました。

令和の時代を迎え、ふるさとが生んだ偉大な作曲家の古閑裕而さんをモデルとした連続テレビ小説の放映決定や、東京2020オリンピック競技大会の福島市開催は、本市にとって、これまでを振り返るとともに、理想とする形へ踏み出す絶好の機会になったことと思います。

今後ますます「男女共生」が求められる時代。「男女共生」が多くなる方にとって当たり前になるように、これからも市民の皆さんに関心をもっていただけるよう情報発信をしていきたいと思っております。

編集

さんかくBook編集委員会
 市民編集委員(8名)

- 小熊 剛 加藤憲彦
 - 佐藤あけみ 清野篤志
 - 竹中 大 西條正美
 - 横山智美 吉田美穂
- ※さんかくBookは、市政だより折り込みのほか、各学習センターなど市の窓口で配置しています。また、市ホームページからもご覧いただけます。